

令和8年度 愛知県相談支援現任研修

相談援助に求められる チームアプローチ

“ 多職種連携 ”

【A日程】

福) 名古屋市総合リハビリテーション事業団
相談支援部長
なごや高次脳機能障害支援センター参事
小島 一郎

【B日程】

福) 親愛の里
中村区障害者基幹相談支援センター
センター長
関戸 久美子

2日目以降（演習）の獲得目標

2日目 個別相談支援と ケアマネジメント	本人を中心とした個別相談支援に必要な技術について説明できる。 また、自身の個別相談支援の実践の振り返りや、他の実践事例の検討を通じて、能力の向上を図る。
3日目 相談援助に求められる チームアプローチ （多職種連携）	他の多様な職種に対する理解・尊重に基づいてチームを組織し、円滑に機能させるための技術の向上を図る。
4日目 地域をつくる相談支援 （コミュニティワーク） の実践	地域をつくる相談支援の実践に必要な価値・知識・技術について理解を深める。また、自身の地域をつくる相談支援の実践の振り返りや、他の実践例の検討を通じて、地域援助の能力を獲得する。

助言・指導を受ける重要性の理解

GSV
の
体
験

演習2日目「チームアプローチ」の流れ

時 間	内 容
9:30～ 9:35	オリエンテーション
9:35～10:10	講義（演習の視点の確認） ・多職種連携・チームアプローチの重要性 ・セルフチェックシートのポイント
10:10～10:15	演習Ⅰの説明・グループ内の役割分担
10:15～15:00	演習Ⅰ 実践報告・検討（34分/1ケース × 6人） （41分/1ケース × 5人） （読み込み→発表→質疑応答→課題検討→演習講師コメント） 進行に応じて昼休憩を60分とる 進行に確認しながら午前・午後に休憩10分をとる
15:00～15:35	事前課題「チームアプローチのセルフチェックシート」当日部分 記載（個人ワーク10分 グループワーク20分）
15:45～16:00	演習Ⅱの説明
16:00～16:40	演習Ⅱ インターバル「課題の整理と共有」 個人ワーク（10分）→グループ共有（30分）
16:40～17:00	まとめの講義 及び 次回の事前課題の確認
17:00～17:05	伝達事項・事務連絡

用語の整理

「チームアプローチ」の中で行われる
関係者の協力・協働

- 「連携」

同じ目的に従っている者同士が、互いに連絡を取り、協力しあって事を行うこと

- 障害福祉分野の「多職種連携」

障害児者の支援のために、様々な専門職や地域の関係者が互いに連絡を取り協力しあうこと

- 「チームアプローチ」

集団で共同して仕事＝障害児者の支援を行うこと

「本人の希望する生活の実現」のために集まった
関係者が協力し、一体となって支援を行うこと

多職種連携・チームアプローチの重要性

< 5つの認識 >

多様な「ニーズ」や「社会情勢」の変化に対応するため

1. 多元性

1人の相談や一つの機関でできることには限りがある

2. 限界性

連携やチームでの対応により、できることやアイデアが広がる

3. 可能性

得手・不得手、過不足を相互にカバーし補完し合える

4. 補完性

自分や事業所、連携各機関の実践力や質の向上につながる

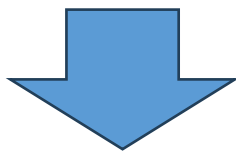
5. 付加性

多職種連携～チームアプローチ

- 地域生活支援に関わる関係者は、保健・医療・福祉・教育・司法などの様々な専門職から地域住民まで、幅広い
- 障害福祉分野だけでも、通所事業所、ホームヘルプ、短期入所、グループホーム…
- また、他分野では専門職として受けてきた教育や主たる実践方法、立ち位置に基づく価値観などが異なることから、ニーズの捉え方や支援方法が異なる



意見調整や合意形成、そのための会議等の調整に時間や労力がかかる



- ✓ 「手間暇」以上に、チームアプローチによる期待・成果が大きいことを、チーム内で認識する
- ✓ そのためにも、関係者間の連携のあり方が「ものをいう」ことを、まず、相談支援専門員が再認識する

「セルフチェックシート」のポイント

「チームアプローチの視点と意思決定支援」

一般論としての「意思決定支援」とは

認知障害を持った人々（知的ないし発達障害、精神障害、認知症、後天的脳損傷その他、認知に影響しうる他の障害をもつ人々）が、平等に社会参加できるように、**意思決定の手助けをすること。**

（障害福祉サービス等の提供に係る意思決定支援ガイドラインより）

自ら意思を決定することに困難を抱える障害者が日常生活や社会生活に関して**自らの意思が反映された生活**を送ることが出来るように、**可能な限り本人が自ら意思決定できるように支援**し、本人の意思の確認や意思及び選好を推定し、支援を尽くしても本人の意思及び選好の推定が困難な場合には、最後の手段として本人の最善の利益を検討のために事業者の職員が行う支援の行為及び仕組みをいう。

意思決定支援等にかかる各種ガイドラインについて

- 障害福祉サービス等の提供に係る意思決定支援ガイドライン
(事業者や成年後見の担い手を含めた関係者)
- 認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援ガイドライン
(認知症の人を支える周囲の人)
- 人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン (本人・家族等と医師をはじめとする医療・介護従事者)
- 身寄りがない人の入院及び医療に係る意思決定が困難な人への支援に関するガイドライン (医療機関・成年後見人等)
- 意思決定支援を踏まえた後見事務のガイドライン (成年後見人等)
- 障害児支援におけるこどもの意思の尊重・最善の利益の優先考慮の手引き (障害児支援)

2 意思決定支援のポイント

プロセス：たくさんの歯車をかみあわせる



本人には「意思」があり、決める力があるという前提に立ち、かかわりのなかで、その意思を尊重して支えていく。

「チームアプローチの視点と意思決定支援」

① 本人の周囲にいる人々や地域の関係機関を把握することの必要性

- 本人に関わるのは支援者だけでない。家族や知人、よく行く店舗、近隣住民など、もともとの生活者としてのつながりがある。
- 地域の関係機関の把握出来ているか。自分の知っているところ、繋がりが強いところだけで支援を考えていないか。
- 本人の自己決定や意思確認がどうしても困難な場合、本人をよく知る関係者からできるだけ多くの情報を収集し、意思や選好の推定をする必要がある。

「チームアプローチの視点と意思決定支援」

② 本人の意思（本人中心）を尊重しながらチームで支援することの必要性

- チーム内で本人の希望や意向、その実現に向けた一貫した支援方針を共有しているか
- 支援者の都合が優先されていないか

「チームアプローチの視点と意思決定支援」

③ 本人を中心としたチームを構成するための必要な手段

- チーム内で、意思決定支援に関わる姿勢を共有している
- 連携する相手の職種や立場を理解する
- お互いに学びあい、支援スキルの向上を図っている

「チームアプローチの視点と意思決定支援」

④ 本人を中心としたチームの中での自分の役割

- 相談支援専門員の役割について理解し、実践・説明できる
- チーム力を高めるコーディネートを行っている

「チームアプローチの視点と意思決定支援」

⑤ チームアプローチを通じた新たな社会資源の創出

- ・ 本人の希望や意向を実現するために、チームの拡大を図る
- ・ 本人に適した新たな社会資源の把握・活用を行う
- ・ 本人の意向に沿って、社会資源の改善・開発を行う

「チームアプローチの展開」

① 支援目標の共通理解を得るための会議の実施（サービス担当者会議）

- 本人参加を原則とする
- サービス担当者会議の機能を理解している
 - i 利用者の「個別課題解決機能」
 - ii 支援者の「ネットワーク構築機能」
 - iii 地域の「地域課題発見機能」
- サービス等利用計画を関係者に交付する
- 個別支援計画を各事業所から交付される

「チームアプローチの展開」

- ② 支援の経過や本人の満足度、チームアプローチの評価のための会議の実施（モニタリングを目的としたサービス担当者会議）
 - チームアプローチにおけるモニタリングの重要性
 - モニタリング検証の実施へ

「チームアプローチの展開」

③ 危機介入や緊急時の支援体制、リスクマネジメント

- チーム内で地域生活におけるリスクの想定ができているか
- チーム内で介入のタイミングや方法、緊急時の支援体制を共有しているか

「チームアプローチの展開」

④ 地域資源（地域の中にある当たり前資源） の活用方法

- 地域資源の活用により地域生活が定着し、継続する
- 本人から見た地域のつながりを意識する

「チームアプローチの展開」

⑤ 地域を巻き込んだ支援の検討

- 地域の様々なつながりの中で本人を把握する
- 本人の希望・意向に沿ってつながりを広げる

「チームアプローチの展開」

⑥ 本人の意思を確認しながらチームでかかわる

- 本人のサービス利用後の感想・要望を確認する
- 本人の意思や選好が変化する可能性があることを踏まえる

「関係機関との連携・協議会へのつながり」

- ① 本人の意思決定支援に重きを置いた会議の必要性（意思決定支援会議）
 - 可能な限り本人の意思決定を支援する一方、意思や選好の確認・推定が困難な場合、本人をよく知る関係者からできるだけ多くの情報を収集し、支援の方針や内容に反映させるための会議を開催する。
 - 支援者の都合や特定の関係者の意図が優先されていないか

「関係機関との連携・協議会へのつながり」

- ② 本人を中心とした支援会議を必要に応じて実施している（支援上の課題等を話し合う個別支援会議等）
 - サービス担当者会議以外にも、必要に応じて関係者で話し合う機会をもつ
 - 支援上の課題に応じて参加依頼を工夫する（主任相談支援専門員、基幹相談支援センター、障害特性別の専門職、生活課題別の専門職）

「関係機関との連携・協議会へのつながり」

③ 本人を中心とした支援会議での自分の役割

- 支援会議の自分の役割や立場を意識して準備し、会議に参加しているか
- チーム力を高めるコーディネートを意識しているか
- 支援課題への助言役として、地域での取り組みへのつなぎ役として

「関係機関との連携・協議会へのつながり」

④ 本人を中心とした支援会議の協議会・相談支援部会等での共有

- 地域の協議会、相談支援部会等に定期的に参加している
- 相談支援部会等で、個別相談に関する困りごとや支援会議の内容を共有できている
- 協議会、相談支援部会等への参加を通じて気づきが得られる

「関係機関との連携・協議会へのつながり」

⑤ 地域の相談支援体制の中で実施される事例検討・GSVへの参加

- 地域の事例検討会やGSVに参加しているか
- 地域の事例検討会やGSVに事例を提供しているか

演 習 I

チームアプローチに関する 実践報告・検討



演習Ⅰ：実践報告・検討【1人：34分・41分】

【事例の読み込み】（2分）

エコマップ・チームアプローチワークシート①を中心に読み込み。
報告者は8分で発表できるようにまとめる。



【実践報告】（8分・10分）

報告者から、本日の講義の内容や獲得目標を踏まえ、発表。
他のメンバーはチームアプローチワークシート②にメモ。



【質疑応答】（11分・13分）

他のメンバーから、本日の講義の内容や獲得目標を踏まえ、質問する意図を明確に持って質問します。

【課題の検討】（11分・13分）

他のメンバーから、意見やアイデアをもらいます。
※報告者はチームアプローチワークシート①5・6に記載。⇒演習Ⅱで使用



演習講師コメント（2分・3分）

実践報告 【1人8分・10分で発表】

1. インターバル期間の取り組み報告（修正した事例）…3分・4分

- ・ インターバル期間の気づき・考察を中心に

2. エコマップ …1分

- ・ チームの支援方針とチームアプローチの状況
- ・ ご本人や家族、資源との関係性

3. チームアプローチワークシート① …3分

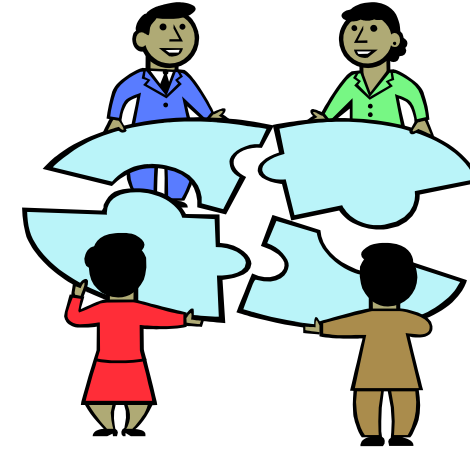
- ・ インターバルで取り組んだ〈事前課題1～4〉について報告

4. セルフチェックシート …1分・2分

- ・ やってみて気づいたこと、自分の評価・所感

※発表の時間配分はあくまで目安、グループ人数や進捗状況により調整。

本日のグラントルール



- ▶ ひとつのテーマにつき、
1人1回は発言しよう
- ▶ 肩書きを気にせず、対等な立場で話し
合おう
- ▶ 発言は簡潔に、人の話はしっかり
- ▶ 批判ではなく他のアイデアを出そう

グループワークを始める前に…

1) グループで進行役・発表の順番を決める。

(演習講師はタイムキーパーを担う)

2) チームアプローチワークシート②を手元に用意する。

3) 発表資料をグループメンバーへ配布。

配布資料：修正した事例、エコマップ、

チームアプローチワークシート①

本日のテーマと獲得目標を意識！

グループ進行もスキルUPのチャンス！

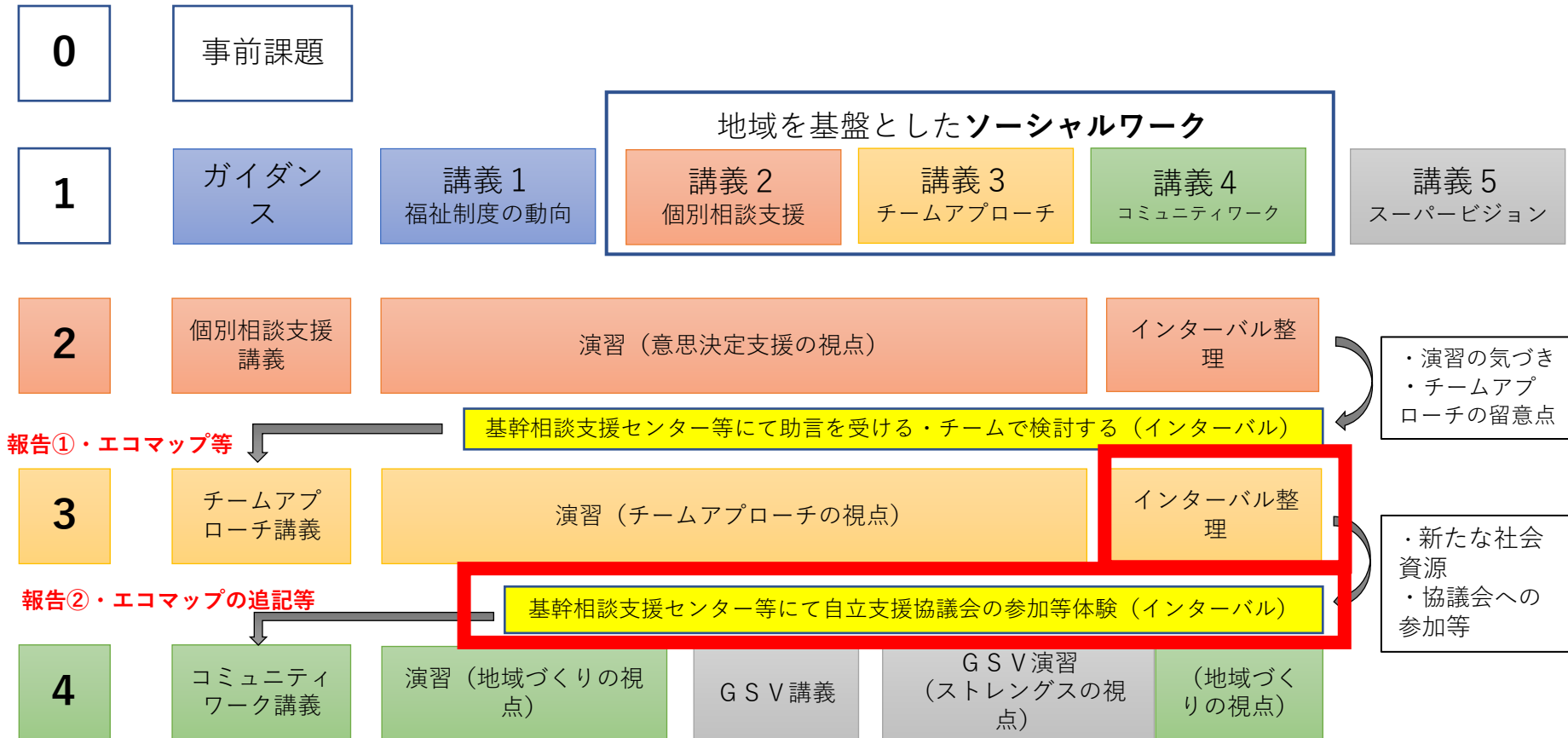


演 習 Ⅱ

インターバル期間に取り組む
課題実習を確認



現任研修の構造



インターバル報告書②の内容

1. 今回のワークの振り返りについて

- ① グループワークで検討した内容を踏まえて、インターバル期間に**知りたい事、行いたい事**
- ② 今回の事例に関しての地域の**協議会活用の仕方**、自分が**地域づくりのために出来そうなこと**

演習 II

2. インターバルで取り組んだ内容

- ① ワークの中で検討したことに対する**助言、残された課題**
(個別相談の困難さや課題、地域の課題)
- ② 新たな社会資源の情報(エコマップにも追記)
- ③ 課題解決に向けた相談支援専門員を支える地域の仕組み
- ④ 上記の「残された課題」を地域の協議会で共有・検討する場合の流れ(**フロー図**)

インターバル中の
取組報告

インターバル実習のねらい

1. 演習 I を踏まえた振り返りを行い、助言を受けたい内容を自ら具体的に設定する。
→ **アクションプランの作成！**

2. 事例を通じた協議会活用について考察し、共有・検討の具体的流れも含め報告書を作成。更なる気づきを得て、演習 3 日目に臨む。



インターバル報告書②の内容のポイント

1. 今回のワークの振り返りについて	2. インターバルで取り組んだ内容
①について ・ 講義、セルフチェックシートの視点：多職種連携の工夫、チームアプローチの重要性（可能性の広がり） ・ 演習内で得た情報、視点、気づき（ワークシート①5, 6）	①について ・ 基幹センター等から受けた助言や自身の気づき ・ 解決の方向性が見出せない課題、地域の他の関係者による検討が必要な課題
②について ・ 現時点でイメージできる協議会活用 → 協議会の誰（どこ）に何を持ち込むか ・ 現時点でイメージできる地域への働きかけ → 個別支援の流れで新たに誰（どこ）に何を依頼して（話して）みるか ◎大げさに考えないことがポイント！	②新たな社会資源の情報 基幹センターからの情報、自身の取組結果 ③課題解決に向けた相談支援専門員を支える地域の仕組み ④について 地域の協議会で検討する流れ＝フロー図 ◎できるだけ具体的に！ ◎協議会の組織図ではない！



演習Ⅱ

【個人ワーク】（10分）～16：10

演習Ⅰの内容（チームアプローチワークシート① 5・6）を踏まえ、インターバル報告書②の1を記載。

1. 演習Ⅰを踏まえ、

①インターバル期間に知りたい事、行いたい事

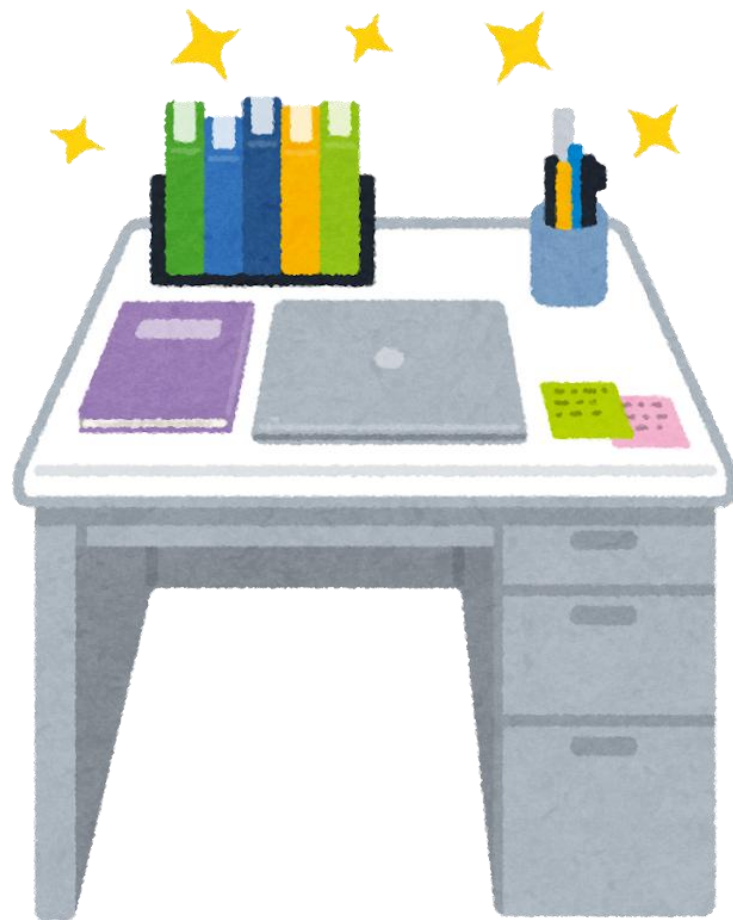
②今回の事例を通じた協議会活用の方法、地域づくりのためにできそうなこと



【グループワーク】（30分）16：10～16：40

個人ワークの共有：1人5～6分×5～6人＋演習講師コメント

ま と め



今日のポイント

- チームアプローチの重要性、そのためには連携の工夫が必要
- 本人の希望の生活の実現、そのための課題解決のためにはチームの拡大や地域への働きかけが必要→地域づくり

◎大げさに考えない

- 自分で働きかける→チームで働きかける→協議会を活用する

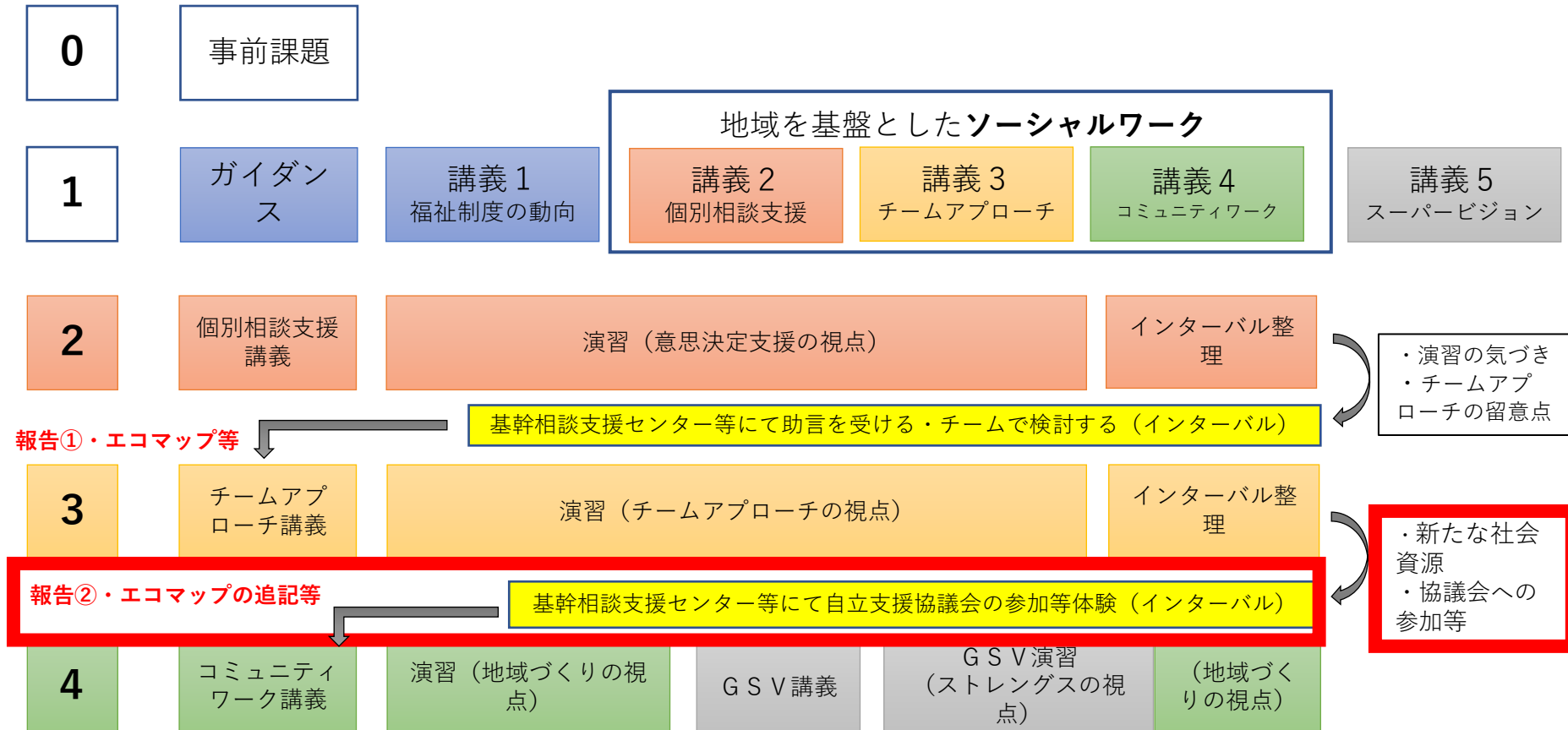
◎演習3日目に向けて

演習 3 日目に持ってくるもの

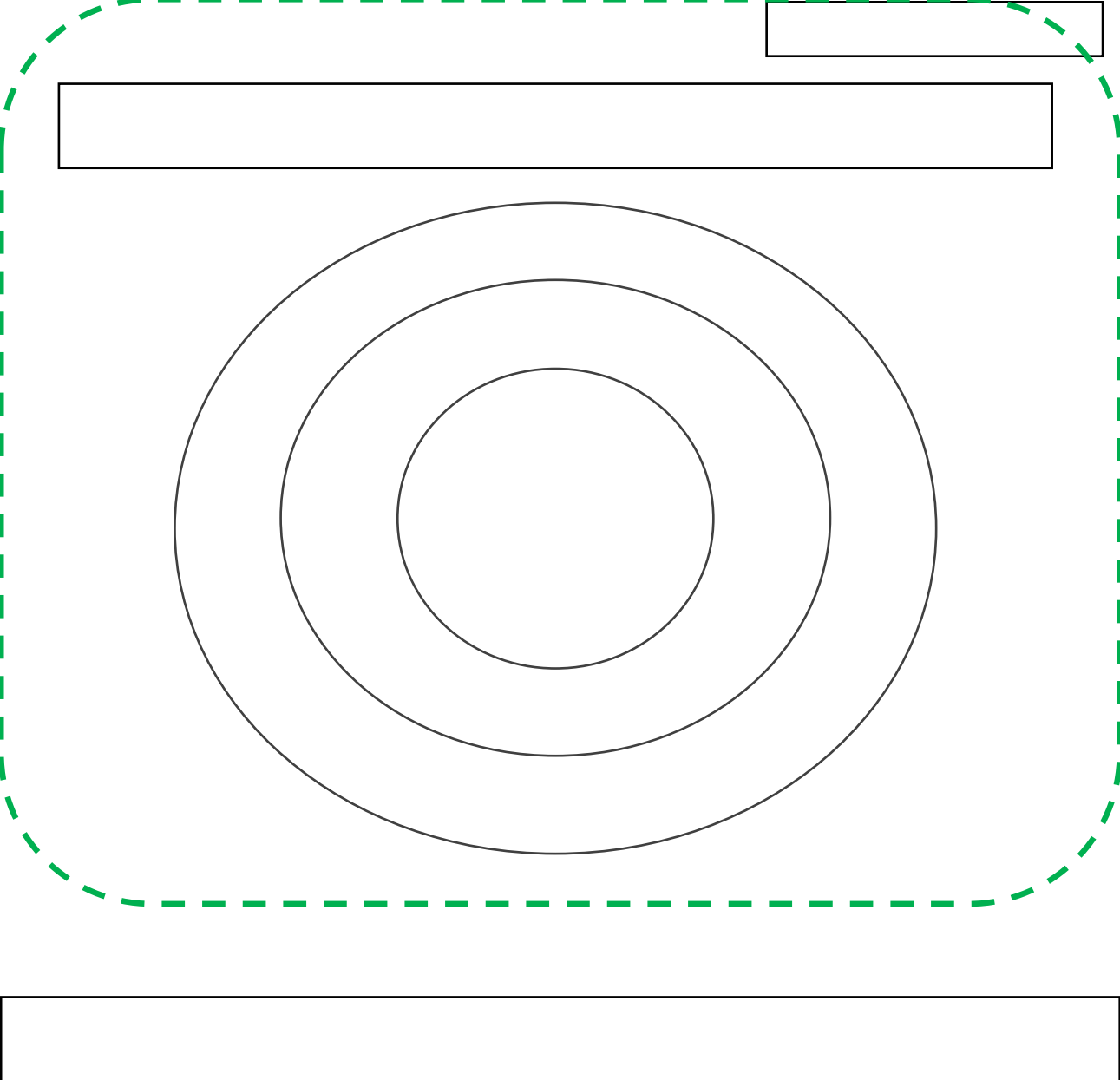
※配布資料「演習 3 日目提出課題チェック表」参照

- 修正した事例課題・・・7部
（受講者・演習講師・グループ人数分）
 - ・ 演習講師がコメントした事例課題・・・1部
- 修正したエコマップ・・・7部
（受講者・演習講師・グループ人数分）
- インターバル報告書②両面刷り・・・3部
（事務局・受講者・演習講師）
＋
 - ・ 演習 3 日目の講義資料（愛知県HPに掲載）

現任研修の構造

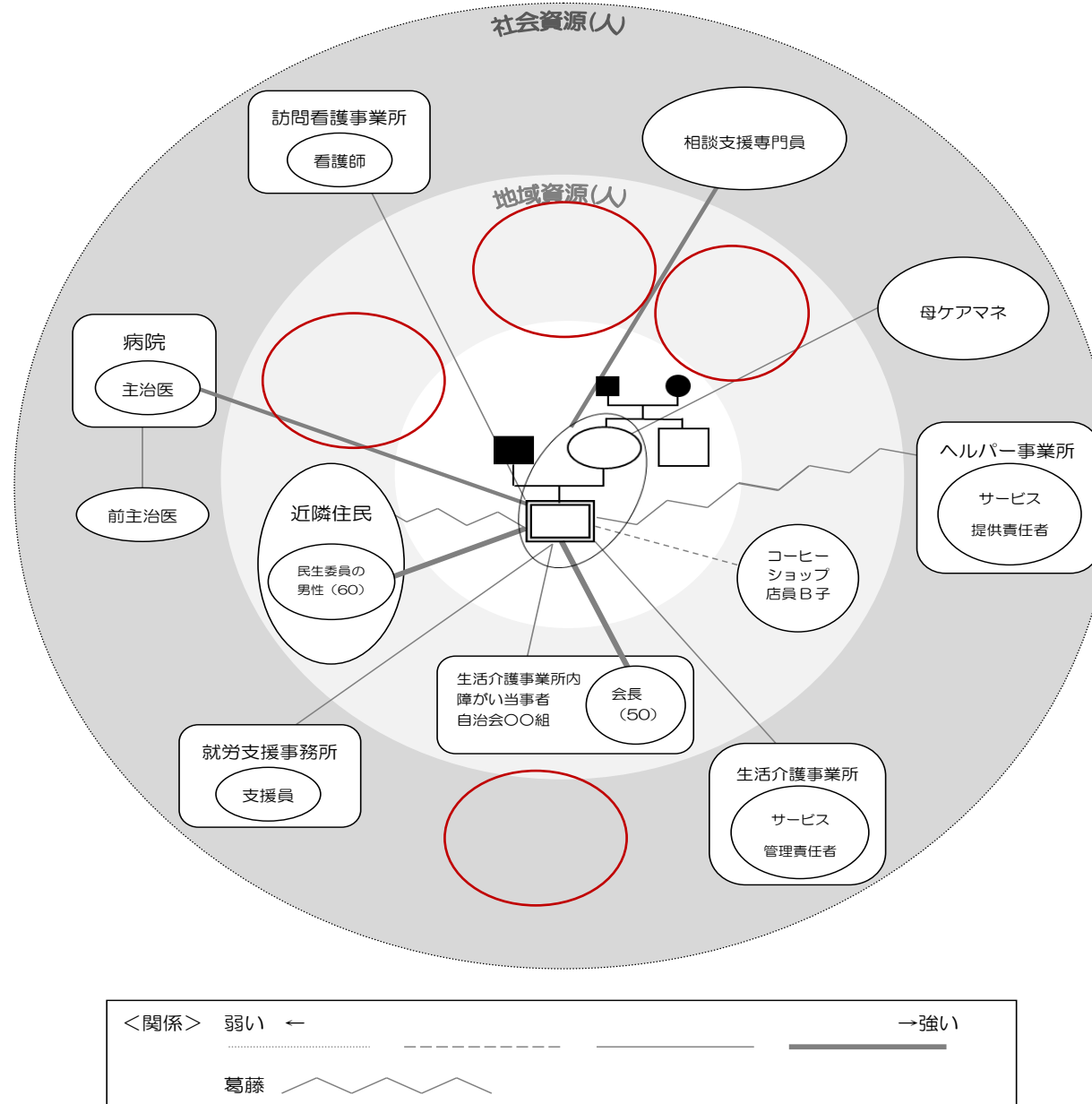


エコマップ

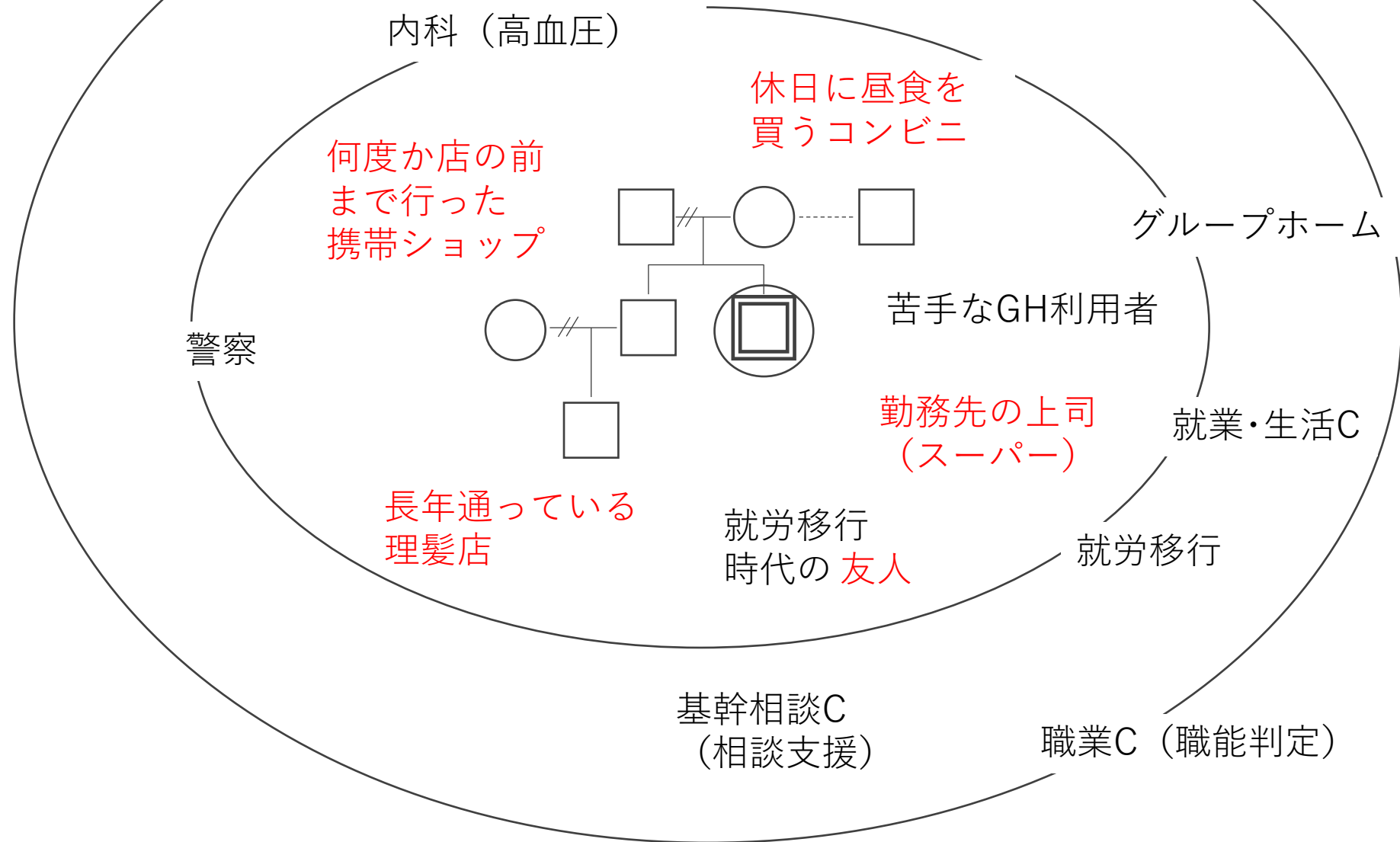


演習1日目→2日目
に作成

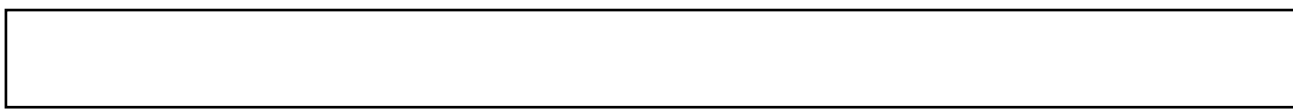
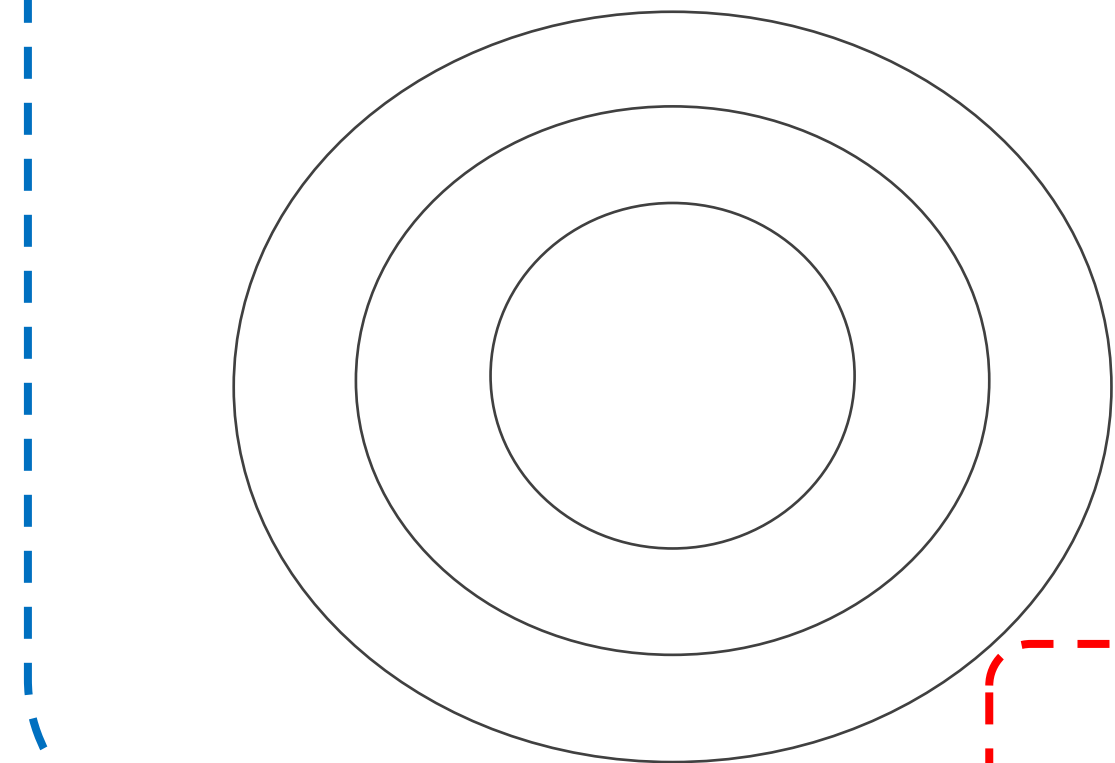
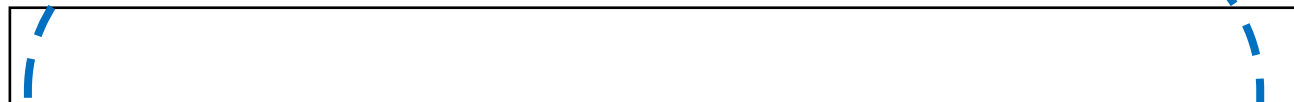
エコマップ



エコマップのあり方



エコマップ



演習2日目→3日目
に修正
* インフォーマル

演習2日目→3日目
に記載
* あるとよい資源

